



2021年12月

2021年12月にリリースされた、シスコのクラウドベースの機械学習によるグローバル脅威アラートに関するアップデートです。

- [新しい Log4Shell 検出 \(1 ページ\)](#)
- [新しい SNI スプーフィングディテクタ \(3 ページ\)](#)
- [追加の脅威検出 \(3 ページ\)](#)

新しい Log4Shell 検出

最近発見された Log4j の脆弱性に関連する次の 2 種類の検出を含む、新しい脅威検出をポートフォリオに追加しました。

Log4Shell を介したマルウェアのインストール

これは、すでに成功している Log4j のエクスプロイトの検出です。Log4j は、Web アプリケーションで使用されるロギングフレームワークです。その log4j2 ライブラリは、任意のプロトコル (TCP、HTTP) を介したリモートコード実行 (RCE) に対して脆弱です。攻撃者が悪意のあるペイロードを送信すると、サーバーによってログに記録され、脆弱性がトリガーされます。これにより、Web サーバーは JNDI を介して不正なインフラストラクチャ (T1583.004) に接続し、悪意のある Java クラス (T1620) ファイルをサーバープロセスに挿入します。挿入された Java クラスは、攻撃の第 2 段階を開始し、攻撃者が攻撃対象のサーバーでコードをリモートで実行できるようにします。攻撃者はこれを使用して、攻撃対象のインフラストラクチャへのフルアクセスを取得し、Mirai、Kinsing (S0599)、Tsunami などの追加のマルウェアや暗号通貨マイニングソフトウェアを導入します。

図 1:

Malware installation through Log4Shell
 Detection of malware installation through exploitation of log4j2 library

Critical Severity 5+ affected assets in 5+ companies

Log4j is a logging framework used by web applications. It's log4j2 library is vulnerable to remote code execution through any protocol(TCP, HTTP). Once the adversary sends the malicious payload, it gets logged by the server and vulnerability gets triggered. It leads web server to connect rogue infrastructure (T1583.004) through JNDI to inject malicious Java class (T1620) file into server process. Injected Java class starts the second stage of the attack and lets adversary to execute code remotely on victim server. Adversaries are using it to get a full access on victim infrastructure and deploy further malware and crypto-mining softwares such as Mirai, Kinsing (S0599), Tsunami etc.

Category: Attack Pattern - malicious file download

お使いの環境で [Log4Shell を介したマルウェアのインストール (Malware installation through Log4Shell)] が検出されたかどうかを確認するには、[[Log4Shell を介したマルウェアのインストール \(Malware installation through Log4Shell\)](#)] をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

Log4Shell 脆弱性スキャン

これは、リモートサービス (T1595.002) のスキャンを実行して、Log4Shell (CVE-2021-44228) を特定して悪用する可能性があるデバイスの検出です。人気のある Java ロギングフレームワークである Apache Log4j の Log4Shell の脆弱性により、リモートコード実行 (RCE) または情報の漏えいにつながる可能性があります。トリガーされたアラートは、スキャンを実行している望ましくないアプリケーションやマルウェアの存在、および侵入を意図したテストアクティビティを示している可能性があります。調査するには、デバイスの意図された動作に対して関連する異常を確認します。

図 2:

Log4Shell vulnerability scan
 Scanning of remote services to exploit the vulnerability in Apache Log4j

High Severity 10+ affected assets in 5+ companies

Device is performing a scan of remote services (T1595.002) to identify and potentially exploit Log4Shell (CVE-2021-44228). The Log4Shell vulnerability in Apache Log4j, a popular Java logging framework, can lead to remote code execution (RCE) or information disclosure. To investigate, verify associated anomalies against intended behavior of the device.

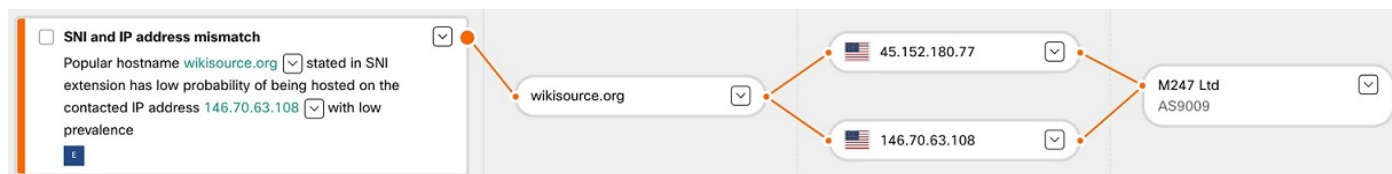
Category: Attack Pattern - scanning

お使いの環境で [Log4Shell 脆弱性スキャン (Log4Shell vulnerability scan)] が検出されたかどうかを確認するには、[[Log4Shell 脆弱性スキャン \(Log4Shell vulnerability scan\)](#)] をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

新しい SNI スプーフィングディテクタ

攻撃者はさまざまな手法を使用してネットワーク保護メカニズムを回避します。サーバー名識別 (SNI) スプーフィングは、ドメインベースのネットワーク保護メカニズムを回避するために使用される一般的な手法です。この手法では、SNI フィールドで既知のドメイン名を使用し、その既知のドメインがホストされている IP アドレスとは異なるサーバー IP アドレスを使用します。既知の SNI と異なるサーバー IP アドレスの組み合わせにより、ドメインベースのセキュリティチェックに合格して、許可されていないサーバーに到達することができます。

図 3:



新しい SNI スプーフィングディテクタは、SNI と IP アドレスの不一致がある場合に不整合を特定します。ディテクタは、暗号化トラフィック分析 (ETA) を使用して SNI フィールドからドメインを抽出し、観測されたサーバーの IP アドレスを、ドメインが通常ホストされている IP アドレスのグローバル統計モデルと比較します。観測されたサーバーの IP アドレスがモデルと一致しない場合、SNI フィールドのドメインがスプーフィングされている可能性があり、ネットワークトラフィックが望ましくないサーバーにルーティングされています。不一致は、SNI 拡張子の一般的なホスト名が、実際に接続されている IP アドレスでホストされている可能性が低いことを示しています。

これは、[アラート (Alert)] > [アラート詳細 (Alert detail)] > [セキュリティイベント (Security events)] で確認できます。

追加の脅威検出

以下の新しい脅威検出をポートフォリオに追加しました。

- FluBot
- LokiBot
- Phorpiex
- Raccoon
- TrickBot

広告インジェクタ、暗号通貨マイナー、悪意のある広告、マルウェアの配布、スパムトラッキングなど、リスクの低い数多くの脅威検出も強化されています。

FluBot

FluBot (Cabassousとも呼ばれる)は、スペイン市場内でバンキングアプリケーションや暗号通貨アプリケーションを標的とする Android ベースのマルウェアです。正規の金融アプリケーション (T1617) にフックし、ユーザーに偽のログインページ (T1417) を提示します。ログイン情報がオーバーレイされたフィッシングページに送信されると、攻撃者が制御するコマンドアンドコントロールサーバーに流出 (T1532) します。FluBotは、ドメイン生成アルゴリズム (T1520) を使用してコマンドアンドコントロールアドレスを見つけます。ダウンロードリンクを含む SMS メッセージ (T1582) を介して拡散することができ、追加の権限 (TA0029) を取得することにより、再起動 (TA0028) 後も持続できます。

お使いの環境で FluBot が検出されたかどうかを確認するには、[\[FluBot脅威の詳細 \(FluBot Threat Detail\)\]](#) をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

図 4:

FluBot

Android malware targeting banking and cryptocurrency applications

High Severity 5+ affected assets in 5+ companies

FluBot, also known as Cabassous, is an Android based malware that is targeting banking and cryptocurrency applications. Once deployed, it hooks into a legitimate financial application (T1617) and presents users with a fake login page (T1417). After credentials are submitted to an overlaid phishing page, it exfiltrates (T1532) them to the C&C server controlled by the attacker. FluBot uses a domain generating algorithm (T1520) to locate C&C address. It is capable of spreading through SMS messages (T1582) containing a download link. It can persist between reboots (TA0028) through gaining additional privileges (TA0029).

Category: Malware - bot

LokiBot

LokiBot (S0447) は、Loki-bot または Loki bot とも呼ばれ、情報を盗むコモディティマルウェアです。盗む個人データには、保存されているパスワード、ログイン情報、暗号通貨ウォレット (T1555) が含まれます。その後、盗まれたデータは C2 チャネル (T1041) によって流出します。調査するには、感染したデバイスのフルスキャンを実行します。同じユーザーからの追加の確認済みまたは検出されたインシデントを探します。フルスキャンとクリーンアップ後も動作が続く場合は、感染したデバイスのイメージを再作成することを検討してください。

お使いの環境で LokiBot が検出されたかどうかを確認するには、[\[LokiBot脅威の詳細 \(LokiBot Threat Detail\)\]](#) をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

図 5:

LokiBot
Infection with exfiltration capability

Critical Severity **Confirmed** 5+ affected assets in 5+ companies

LokiBot (S0447), also known as Loki-bot or Loki bot, is an information stealing commodity malware. The private data can include stored passwords, login credential information, and cryptocurrency wallets (T1555). Later on, stolen data is exfiltrated by C2 channel (T1041). To investigate, perform a full scan of the infected device. Look for additional confirmed or detected incidents from the same user. If the behavior persists after a full scan and clean-up, consider reimaging the infected device.

Category: Malware - bot

Phorpiex

Phorpiex は、オペレーティングシステムに感染して追加のマルウェアを配布するトロイの木馬とワームです。Phorpiex は、ランサムウェア、暗号通貨マイナー、スパムメール (T1566) を送信するマルウェアなど、さまざまなペイロードをドロップすることが知られています。アクセスするため、添付ファイルによるスピアフィッシング攻撃 (T1566.001) を使用して拡散します。Phorpiex は IRC を使用しますが、暗号化チャンネル通信 (T1573) も使用できます。このボットネットはシステム内で存続するために、自動起動用レジストリキー (T1547.001) を作成します。また、検出 (T1564.001) を回避するためにダウンロードしたファイルを非表示にすることもあります。

お使いの環境で Phorpiex が検出されたかどうかを確認するには、[\[Phorpiex脅威の詳細 \(Phorpiex Threat Detail\)\]](#) をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

図 6:

Phorpiex
Infection that can download additional malware such as ransomware

High Severity **Confirmed** 100+ affected assets in 5+ companies

Phorpiex, also known as Trik, is a Trojan and malware-delivery botnet. Phorpiex has been known to drop a wide range of payloads, from malware to send spam emails (T1566) to ransomware and cryptocurrency miners. To gain access, it spreads by using the Spearphishing Attachment technique (T1566.001). Phorpiex uses IRC, but can also use encrypted-channel communication (T1573). To persist in the system, this botnet can create an autostart registry key (T1547.001). It also may hide the files it downloaded to evade detection (T1564.001).

Category: Malware - downloader

Raccoon

Raccoon (Mohazo または Racealer と呼ばれる) は、2019年4月から出回っている情報窃取マルウェアです。ブラウザからビットコインウォレットにデータ (T1005) を盗むことができ、個人資産とビジネス資産の両方に対する脅威です。Raccoon は、攻撃対象のデバイスからデータを盗み出します。このデータは、後でさまざまな用途のために他の悪意のある攻撃者に販売される可能性があります。

Raccoon は、このマルウェア自体から名を取っているグループによってダークネットフォーラムで販売され、北米、ヨーロッパ、およびアジアをターゲットとするロシアのグループによって運営されています。Tor (S0183) を介してアクセス可能なコントロールパネルで簡単に使用できます。Raccoon は、配布インフラストラクチャが不足していることから、マルバタイジング（エクスプロイトキットを介してインストールされる）やフィッシングによって配布されることがよくあります。

お使いの環境で Raccoon が検出されたかどうかを確認するには、[\[Raccoon脅威の詳細 \(Raccoon Threat Detail\)\]](#) をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

図 7:

Raccoon

Information stealer malware that can exfiltrate data from the victim device, including personal information and crypto currency wallets

High Severity **Confirmed** 100+ affected assets in 10+ companies

Raccoon, also known as Mohazo or Racealer is an information stealer malware that is active since 2019 April. It is sold on darknet forums by the group which is named after malware itself. It is capable of stealing various data (T1005) from browser to bitcoin wallets. It is easy to use and offers a control panel that is accessible through Tor (S0183). It is often distributed through malvertising (installed through exploit kits) and phishing due to a lack of distribution infrastructure. It is operated by a Russian Group and often targeting North America, Europe, and Asia. It possesses a threat to both personal and business assets. After its execution, it exfiltrates data from a victim device, which later can be sold to other malicious actors for various uses.

Category: Malware - trojan

TrickBot

TrickBot (S0266) は Trickster と呼ばれ、特定の金融機関の機密情報を標的とするバンキング型トロイの木馬です。このマルウェアは、悪意のあるスパムキャンペーンを通じて頻繁に配布されます。これらのキャンペーンの多くは、VB スクリプトなど、配布のためにダウンローダーを利用しています。

お使いの環境で TrickBot が検出されたかどうかを確認するには、[\[TrickBot脅威の詳細 \(TrickBot Threat Detail\)\]](#) をクリックして、グローバル脅威アラートで詳細を表示します。

図 8:

Trickbot

Infection with exfiltration capability that targets banking credentials

Critical Severity **Confirmed** 30+ affected assets in 10+ companies

Threat related to the Trickbot (S0266) (aka Trickster) banking Trojan targeting sensitive information for select financial institutions. This malware is frequently distributed through malicious spam campaigns. Many of these campaigns rely on downloaders for distribution, such as VB Scripts.

Category: Malware - trojan

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。